

令和4年度 調布市立第八中学校 学校経営計画（学校長 佐藤 政彦）

学校の教育目標	
○自ら考え行動する生徒 ○思いやりのある心豊かな生徒 ○心身ともにたくましい生徒	
目指す生徒像(ビジョン)	
『心理的安全性に満ちた、さわやかで気持ちのいい八中』を目指して、次の生徒像を設定する。 ○「道徳的実践力」の育成・・・人権教育及び道徳教育を重視し、思いやりがあり心豊かな生徒を育成する。 ○「主体的課題解決力」の育成・・・主体的・対話的で深い学びを通して、自ら考え行動できる生徒を育成する。 ○「創造的行動力」の育成・・・学校行事・部活動・キャリア教育等を通して、心身ともにたくましい生徒を育成する。	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	○現状／・素直で素朴さを感じさせる生徒が多く、生活面での乱れはなく、学校生活は落ち着いている。学区外からの生徒が多く、全体の4割近くを占めている。また、通級利用生徒が全体の1割強となっている。 ・保護者は、学校に対して協力的で、PTA活動も活発である。また、地域学校協働本部の活動がコーディネーターを中心に活発に行われており、土曜学習部では、地域ボランティアが多数指導に当たっている。 ○課題／・魅力ある学校づくり（授業力の向上、確かな学力の定着、配慮を要する生徒への個別の支援） ・インクルーシブ教育の推進（R2・3年度の研究推進校研究発表を発展させた取組、校内通級教室拠点校としての取組、指導スキルの向上、ICT機器の活用） ・地域と連携した学校づくり（地域学校協働本部の活動の継続、土曜学習部の運営、各種検定の実施）
中期的な経営目標	
<ol style="list-style-type: none"> 生活指導・進路指導・安全指導の充実を図り、豊かな心を持ち、自他を尊重し道徳的な行動ができる力を養う。 学習意欲を喚起し、確かな学力の定着を図り、主体的に探究し課題を解決する力を養う。 特別支援教育や食育等の充実を図り、心身ともに健康で、持続可能な社会づくりに貢献できる力を養う。 保護者・地域との連携を深め、社会に開かれた教育課程の実現を目指す。 地域人材を活用した学習支援等により、地域・保護者が一丸となった学校づくりを目指す。 学校行事等の体験的な活動を通して、創造力を育み、自己有用感を育む。 	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標（具体的方策） ①人権尊重の精神、自他の生命尊重や思いやりの心を育成する。また、いじめ等の未然防止、早期発見に努める。いじめ対策委員会を毎週実施、生活アンケートを毎月実施、1年生対象に6月にSC 全員面談を実施、学期ごとに個人面談を実施、12月にいのちの授業を実施。 ②生徒理解の深化を図るとともに、教師と生徒及び生徒相互の人間関係を形成する。毎週運営委員会で生徒情報を交換・共有、4月と9月に生徒理解研修を実施、学期の初めに学級ごとにグループエンカウンターを実施、生徒会によるあいさつ運動・全校レクを実施。	(1) 取組目標（具体的方策） ①授業規律を確立し、基礎的・基本的事項の確実な定着を図るとともに、主体的な学習態度を身に付けさせる。定期考査前自習教室を年8回実施、土曜学習部を1・2年生、年11回、3年生、年20回実施、朝読書を毎日10分間実施、英語・漢字検定を年6回本校で実施。 ②教員の指導力の向上を図り、生徒一人一人の学習意欲を向上させる。教員間の相互授業参観を毎学期実施、生徒保護者による授業評価アンケートを年2回実施、授業参観時に保護者による授業アンケートの実施。チームによる若手教員の育成。	(1) 取組目標（具体的方策） ①心身ともにたくましい生徒を目指し、一校一取組運動や部活動等により、健康づくりや体力向上を図る。夏季休業中に水泳教室を5日間実施、12月に始業前の20分間走を5日間実施、部活動加入率95%以上を目指す。 ②望ましい食習慣を身に付けた健康な生活のために、食に関する指導の全体計画に基づいた食育を推進する。また、食物アレルギー事故防止の意識啓発を図る。3年生を対象に喫煙・薬物乱用防止教室を年1回実施、学校保健委員会を年2回実施、アレルギー研修を年3回実施。
(2) 成果目標（数値目標） ①「毎日学校へ行くのは楽しい」と肯定的な回答90%を目指す。 「自分は、他人を思いやる気持ちをもっている」と肯定的な回答90%を目指す。 ②「子どもは、学校での人間関係が上手に出来ている」と肯定的な回答90%を目指す。(P)	(2) 成果目標（数値目標） ①「毎日の学校での勉強で基礎的な学力を身に付けている」と肯定的な回答90%を目指す。 「子供は学校で基礎的な学力を身に付けている」と肯定的な回答80%を目指す。(P) ②「先生方は分かりやすい授業をしてくれている」と肯定的な回答95%を目指す。	(2) 成果目標（数値目標） ①「体育の授業や部活動で基礎的な体力を身に付けている」と肯定的な回答85%を目指す。 「積極的に部活動に参加している」と肯定的な回答75%を目指す。 ②「生徒の健康に配慮し病気や怪我等に対応してくれる」と肯定的な回答95%を目指す。(P)
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
4 保護者・地域・小学校との連携	5 特別支援教育の充実	6 学校行事の充実
(1) 取組目標（具体的方策） 保護者、地域の小学校、地域の健全育成団体等との連携をより一層深め、学校への協力体制を構築する。保護者会を各学期実施、健全地区委員会・まちづくり協議会の会合に月1回出席、地域行事（こいのぼりプロジェクト、桜まつり等）への参加、10月に小中連携行事を実施。	(1) 取組目標（具体的方策） 不登校生徒や生活指導上配慮が必要な生徒に対して、ガイダンス機能の充実を図り、子どもに寄り添ったきめ細やかな指導を展開する。インクルーシブ教育の視点に立った授業の構築、特別支援校内委員会を毎週実施、校内通級教室と所属学級との連携、個別指導計画の活用。	(1) 取組目標（具体的方策） 学校行事のねらいを明確にし、集団における所属感や心の絆を深めさせ、学校生活を充実・発展させようとする自主的、実践的な態度を育成する。体育祭、合唱コンクール、学習発表会・作品展、集団宿泊的行事の実施、生徒実行委員会を中心とした企画・立案・運営。
(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）

「学校は便りで学校や子どもたちの様子を伝えている」と肯定的な回答95%を目指す。(P)	「八中は、安全で安心な学校だと思う」と肯定的な回答90%を目指す。	「学校行事に積極的に参加している」と肯定的な回答95%を目指す。
---	-----------------------------------	----------------------------------

成果目標の(P)は、保護者によるアンケートの目標値を表す。

人材育成・組織運営

○主幹・主任教諭を核とした組織的な若手育成

1・2年次教員5名に対し、主幹教諭、主任教諭、教科指導担当を割り当て、4人一組のチームを編成し、OJTを推進する。
 具体的には、主幹教諭には研修報告書の点検、主任教諭には週案の点検、教科指導担当には指導案作成支援を担当させる。

○学年・分掌主任の意識の向上

運営委員会や主任会で、学校課題の共有と解決策の検討を行わせ、主任としての意識を醸成する。各担当からの起案は、必ず主任を通すことで、担当任せにすることなく責任を持たせる。

○地域と連携した人材育成・学校運営

地域の人材と連携・協力することで、学校と地域とが協働して自校の教育活動を向上させる手立てを学ばせる。また、地域の会合や行事に積極的に参加し、生徒や学校の様子を外部へ発信し、地域に開かれた学校運営を推進する。